

「ろう」の世界

ご存じかと思いますが、私は聴覚特別支援学校（「都城さくら聴覚支援学校」といいます）に8年勤めました。私が赴任したころは「都城ろう学校」と言いました。「ろう」はもともと「聾」と書きましたが、差別的な漢字表記だとされ、ひらがなで「ろう」と書くようになりました。そのうち学校名としては「ろう」もやめてしまいました。聴覚障がい者にも、障がいやコミュニケーション手段の違いなどにより、「ろう者」、「難聴者」、「中途失聴者」などいろいろな呼び方があります。自分たちを「ろう者」と呼ぶ人たちは、「ろう」を冠しなくなった母校名に違和感を感じていたようです。今でもこの人たちは自分たちのことを耳と口もとに手を持っていく「ろう」という手話と一緒に「ろう」という口形で呼びます。「ろう文化」ということばも古くなっているのかもしれませんが、このろう者の世界、深いのですよ。

中途失聴者は別として、生まれつき聞こえにくい人たちは、聞こえにくい自分のまま生き生きと生きています。両親ともにろう者の家庭に生まれた人たちは、多くの場合豊かな手話の世界で概念形成をしていきます。両親ともに聴者の家庭に生まれると、言葉が自然に入らないために概念形成が遅れていきます。この場合はできるだけ早く支援学校の乳幼児教室などにつながる必要があります。そこから子どもたちは、様々な手段で与えられる「ことば」を吸収して、周りの世界とつながる術を身につけ始めます。

手話についてお話しします。ごくごく簡単に言うと、手話には大きく2つのカテゴリーがあります。一つは、聴者のことばである日本語を手話単語で表す「日本語対応手話」です。これは、口では日本語を話しながら手も一緒に動かすものです。わたしがまあまあできるのはこの日本語対応手話です。手話単語さえ増やせばできますし、支援学校の授業でもこの方法でコミュニケーションを取っていました。

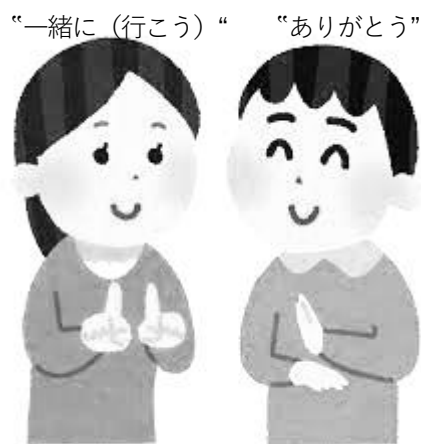
もう一つの手話は、聴覚障がい者の間で長い時間をかけて醸成されてきた「日本手話」です。「アメリカ手話(ASL: American Sign Language)」にならって、「JSL: Japanese Sign Language」と呼ばれることもあります。この世界が深く豊かでおもしろいのです。おもしろいですが、習得は難しいです。よく「手話は言語だ」と言いますが、「言語」として認知されるようになったのはこの「日本手話」の方です。他言語を学ぶということですから、習得が難しいのは当然です。

NHKの手話ニュースを見ていると、話しながら手話をする人と、ほとんど話さずに手話をする人が出てきます。話しながら手話をする人は聴者ですが、多くの場合両親がろう者だったりして日本手話も堪能です。話さずに手話をしている人はろう者の場合が多いようです。この人たちは日本手話を使うことがほとんどです。

この日本手話をネイティブレベルで読み取れるようになるのが私の夢のひとつです。英語のリスニングをネイティブレベルに難なくこなせるようになりたいのと同じくらい夢です。現在、通勤時間を英語のPodcastを聞くことに費やしている私ですが、ときどき手話動画の読み取りに挑戦します。まだ英語より難しいです。夢への道のりは遠いです。

先日、北京パラリンピックの開会式を見ていたら、ろう者が代わる代わる画面に出てきて同時通訳をしていました。ちょっとびっくりしつつ、興味深く見ました。手話通訳者はろう者でしたが、その人たちの向いている方向には、彼らに情報を送る聴者の通訳者「フィーダー」と呼ばれる人がいたようです。私が聴覚支援にいたころにはまだなかった方法です。「フィーダー」ということばも初めてでした。情報が伝わりにくい人たちへ情報をきちんと伝えるという「情報保障」ということばがありますが、その方法もどんどん変わっていきなあと感じました。そして、必死で読み取ろうと、いつの間にか集中していました。空間の使い方、間の取り方、知らな過ぎる手話単語……。ちょっとかじっただけでも豊かさがわかります。視覚言語なので、紙面で見ていただけないのが残念です。

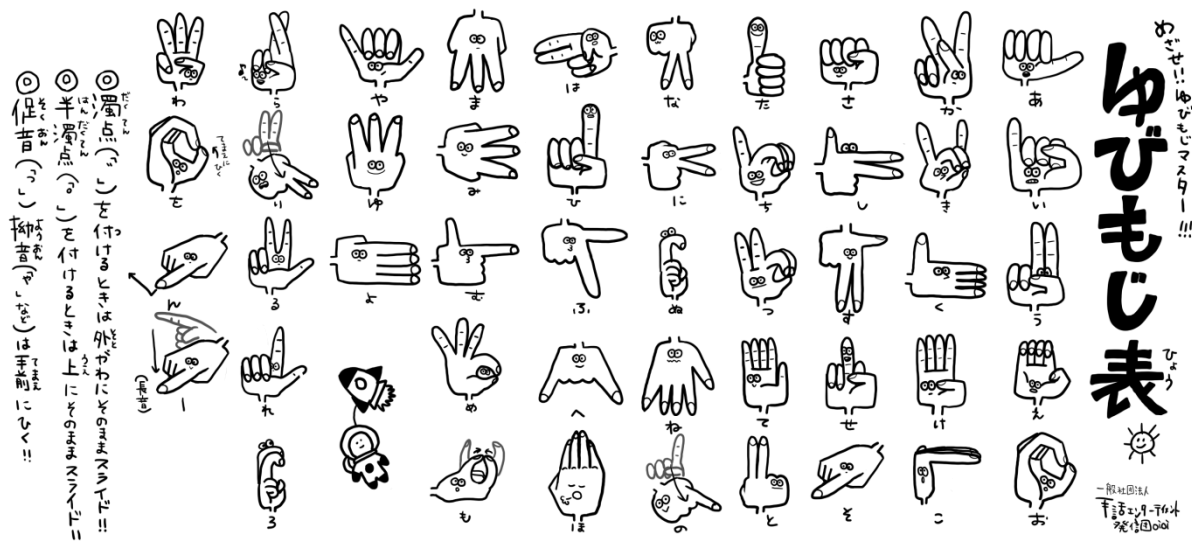
聴覚支援学校での経験をちょっと書いておきましょう。手話ができると、向こうの校舎とこっこの校舎とで、窓を閉めたままでもガラスが透明ならば叫びあわずに話ができます。ただ、話したいことを気付いてもらわないといけなくて、遠いと自然と動きは大きくなります。授業中は、黒板を向いたまま話すのはNG。必ず口形と手話を見せながら、生徒の方を見て話します。生徒も、一言一句見逃すまいとじっと見てくれるのは嬉しかったです。あんなに生徒に注目されて授



業することもなくなってしまったかもなあ…(?!)。話し合い活動があると、とても静かです。でも、生徒同士は手話ですごい勢いで話しています。あの感じはちょっと懐かしいですね。そして、話を止めて注目させたいときには、床をドンドンと踏み鳴らして振動させたり、電気をカチカチと消したり点けたりして生徒に知らせていました。

いわゆる「ろう免」という、聴覚支援に特化した特別支援の免許を取れる大学があります。九州では今でも福岡教育大学で取れると思います。ちなみに、アメリカには Gallaudet University (ギャローデット大学) という、手話オンリーの大学があります。ASL が堪能でないと入れない大学です。講義はすべて ASL です。ASL が堪能であれば聴者でも入れます。(当時、宮崎国際大学にこの大学出身のアメリカ人の先生がいらっしゃいました。聴者の女性でした。ろう教育に関われたおかげで友人になり、今もつながっています。) この大学に留学しようとは思いませんでしたが、一時期、日本語、英語、日本手話、アメリカ手話の quadrilingual を目指そうかと思ったことがあります。すっかり忘れました(苦笑)。でも、アルファベットの指文字はまだできるかな。

英語でつながる世界も興味深いですが、手話でつながる世界もとても興味深いです。ろう教育の世界もおもしろい。機会があったら、『わが指のオーケストラ』(山本おさむ、秋田文庫等、全3巻)を読んでみてください。いくら書いても書き足りません。またそのうちに続きを書かせてください…。



休日は不要不急の外出を控えましょう。

【週行事予定】

月	日	曜	行事予定	FT	謝	備考
3月	4	金	2年写真撮影	○	○	7:25 登校
	5	土				
	6	日				
	7	月	県立高校一般入試準備 生徒自宅学習	×	×	
	8	火	県立高校一般入試1日目 生徒自宅学習	×	×	
	9	水	県立高校一般入試2日目 生徒自宅学習	×	×	
	10	木	県立高校一般入試採点日 生徒自宅学習	×	×	
	11	金		○	○	7:25 登校
	12	土	土曜講座 B			8:20 着席
	13	日				
	14	月		○	○	7:25 登校
	15	火	第8回宮崎県高等学校課題研究発表大会(オンライン)	○	○	7:25 登校
	16	水	㊦各種委員会Ⅷ(必)	×	○	7:25 登校
	17	木	卒業生のお話を聞く会(1,2年)	○	○	7:25 登校

※朝課外のある日は7時25分校門通過、朝課外のない日は8時15分校門通過を厳守しましょう